

事業名	畜産技術奨励費		
細事業名	その他の事業経費	財務コード	056404
担当部課室	農政 部 畜産 課 生産 担当 (内線)	5263	

事業の概要

実施期間	始期 S31 年度 ~ 終期 年度
実施主体	県(直営)、補助(山梨県家畜改良協会、山梨県肉畜鶏卵共進会実行委員会、山梨県畜産技術連盟)
事業の目的	だれ(何)を対象に 畜産農家(酪農、肉用牛、養豚、養鶏)
	その対象をどのような状態にして 共進会への参加を通して、家畜改良による品質や飼育管理技術が向上している
	結果、何に結びつけるのか 畜産農家の生産意欲向上と、県内畜産の振興
事業の内容 主にH26年度	<p>種畜共進会、第42回山梨県肉畜鶏卵共進会開催</p> <p>1 種畜共進会開催費補助金 ・補助先:山梨県家畜改良協会 ・補助率:1/3以内 ・補助額:283千円 ・開催時期:10月</p> <p>2 肉畜鶏卵共進会開催費補助金 ・補助先:山梨県肉畜鶏卵共進会実行委員会 ・補助率:1/3以内 ・補助額:330千円 ・開催時期:8月(肉牛の部)、9月(肉豚の部、鶏卵の部)</p> <p>畜産技術連盟負担金 ・交付先:山梨県畜産技術連盟 ・負担額:50千円 (畜産課、東部家保、西部家保、畜試、酪試 各10千円)</p> <p>中央畜産技術研修や各種事業推進会議等への参加 研修・会議に参加することにより、県の畜産指導担当者の資質向上を図り、指導体制を強化する。</p>
根拠法令等	山梨県畜産共進会開催費等補助金交付要綱

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	25年度	26年度		27年度	28年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	[出品数] ・種畜共進会(乳牛)	28頭	20頭	23頭	23頭	23頭	目標設定の考え方 過去の出品数に基づき設定
	・肉畜鶏卵共進会 肉用牛	70頭	70頭	60頭	70頭	70頭	データの出典等
	肉豚	100頭	100頭	100頭	100頭	100頭	
	鶏卵	15点	15点	15点	15点	15点	
活動指標達成率 (実績値/目標値)		96.6 %				共進会実施要領	
成果指標	生産額(牛乳・肉牛・豚・鶏卵)	8,767百万	9,000百万	9,260百万	9,000百万	9,000百万	目標設定の考え方 生産農家の高齢化等に伴う離農により生産基盤が弱体化しているものの、畜産物価格が上昇傾向にあることを考慮して設定
	成果指標達成率 (実績値/目標値)		102.9 %				データの出典等
							平成26年農業及び水産業生産額実績(山梨県農政部)
決算額又は予算額 (千円) うち一財額	919		774	1,624	791	成果指標によらない成果	
所要時間(直接分)	87 時間		87 時間	255 時間	87 時間	種畜(乳用牛)、枝肉や鶏卵の品質の能力等を共進会において評価することにより、出品または見学した生産者において飼料や飼育環境・方法の改善などが行われ、更なる品質及び能力向上の取り組みに繋がっている。	
所要時間(間接分)	0 時間		0 時間	0 時間	0 時間		
所要時間計	87 時間		87 時間	255 時間	87 時間		
人件費コスト単位:千円 (@2,048円×所要時間)	178		178	522	178		

これまでの事業の見直し・改善状況

--

活動量と成果の判断(平成26年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか (「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)		
数値判定 H26年度 活動指標 の達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)
d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2) 事業は意図した成果を上げているか (「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定 H26年度 成果指標 の達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記載すること 成果指標として設定した乳牛や肉用牛等の年間生産額は9,260百万円(目標額:9,000百万円)であり、成果指標の達成率は102.9%である。 畜産農家の高齢化や後継者不足により、生産基盤の弱体化が懸念される中で、共進会により日頃の飼養管理の成果を競い合い、受賞に向けて日々切磋琢磨することは、飼養管理技術の向上だけでなく、生産農家のモチベーション向上に大きく貢献している。とくに酪農では、平成25年度の中部ホルスタイン共進会や平成27年4月に開催されたブラック&ホワイトショーなどの各種共進会で優勝などの成績を収めるようになり生産農家における家畜の改良増殖にも大きく寄与している。
b	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

見直しの必要性(平成28年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
有	研修参加者による復命研修を実施したり、農家や関係団体等を参集した会議でトピックを紹介するなどして、関係職員の資質向上や農家の飼養管理技術の向上を図るような取り組みを行っていく。	m

・「以外の判断項目」の欄
a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託
i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: 7Qの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

見直しの方向(平成28年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等 「見直しの必要性」と「見直しの方向」が異なる場合は、その理由も記載すること
実施方法等の変更	肉畜鶏卵共進会は、出品者以外の幅広い生産者に参加を呼びかけると共に購買者など流通業者も含めた意見交換会の場を新たに設けることで、生産者の飼養管理技術研磨の場としての一層の活用を図る。 その他の技術研修や研修会への参加により得られた最新技術の成果について、関係職員間の伝達だけでなく、農家や関係団体が集まる会議・講演会で情報提供し、畜産関係者の資質向上や農家の飼養管理技術の向上を図るような取り組みを行っていく。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること
・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること